

開講年度	令和7年度	開講課程	博士前期課程		
授業名	社会医学特別研究				
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室		
科目区分	特別科目	配当年次	1~2年次		
必修・選択の別	選択	単位	1~2単位		
対象学生	一	使用言語	日本語		
キーワード	(法医学) 法医学 (環境保健予防医学) 予防、疫学研究 (公衆衛生学) 予防医学、先制医療、個別化予防 (医療統計学) 医療統計学、データベース (医療データサイエンス学) 医療統計学、データベース (医療情報学) 電子カルテ、医工学				
担当教員 (下線:科目責任者)	医 薬	(法医学) 教授 近藤稔和、准教授 石田裕子、講師 野坂みづほ、講師 石上安希子 (環境保健予防医学) 教授 藤吉朗、准教授 東山綾、助教 竹村重輝 (公衆衛生学) 教授 上田豊 (医療統計学) 教授 下川敏雄、講師 万可 (医療データサイエンス学) 教授 下川敏雄 (医療情報学) 教授 西川彰則			
授業の概要	法医学、環境保健予防医学、公衆衛生学、医療統計学、医療データサイエンス学、医療情報学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における地域の保健医療課題等に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につける。				
到達目標	(法医学) 法医学実務のなかでも損傷死のモデルを樹立してその分子メカニズムの解明に関する研究能力を身につける。 (環境保健予防医学) ①疫学研究に関する論文作成や学会発表に必要な考え方やスタイルを知り実践する。②修士論文を投稿可能なレベルまで作成する。 (公衆衛生学) 予防医学、特に先制医療としての個別化予防医学に重点をおき、現行のコホート研究に参加し、検体の分析から統計解析までを行うことができる。 (医療統計学) 統計解析のためのパッケージを作成することができる。リサーチクエスチョンに基づいて研究計画を立案できる。 (医療データサイエンス学) 統計解析のためのパッケージを作成することができる。リサーチクエスチョンに基づいて研究計画を立案できる。 (医療情報学) 電子カルテなどの診療情報や医療デバイスから得られた生体情報をもとに研究利用可能な構造化データベースの作成及びシステム設計の立案ができる。				

授業計画	<p>(法医学) 損傷死のモデルを樹立してその分子メカニズムを解析する。 (近藤稔和／石田裕子／野坂みづほ／石上安希子)</p> <p>(環境保健予防医学) ①論文作成に必要な背景知識（統計、倫理申請書を含む）を理解し、指導のもと可能な限り関連した実務も行う。②研究テーマにつき学会発表を目指し、修士論文を執筆する。 (藤吉 朗／東山 綾／竹村重輝)</p> <p>(公衆衛生学) 個別化予防実践のためのバイオマーカー開発研究において、バイオマーカー測定及びデータ解析を行う等の研究指導、ならびに論文作成の指導を行う。 (上田 豊)</p> <p>(医療統計学) 統計解析環境Rあるいはプログラミング言語pythonを用いて統計手法のプログラミング及びパッケージ化を行うため。統計手法のヴァリデーション、あるいは性能の評価を行うための統計的シミュレーションについて指導する。 (下川敏雄)</p> <p>(医療データサイエンス学) 修士論文作成のための研究計画について指導する。そこでは、リサーチクエスチョンの立案の方法、研究計画書の作成方法について、人を対象とした医学・薬学研究に関連するレギュレーションとともに指導する。次いで、研究テーマに基づく研究計画の立案を行うとともに、実践のためのデータベース・マネジメント・システム(DBMS)を設計する方法について指導を行う。 (下川敏雄)</p> <p>(医療情報学) 選定した研究テーマにおいて、研究計画の立案及び実践の指導を行い、学会発表、論文作成についての指導を行う。 (西川彰則)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（研究課題の設定内容、研究の遂行状況）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書

(法医学)

【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。

(環境保健予防医学)

【参考書】「基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆」

著書：中村好一 出版社：医学書院

「How to Write, Publish & Present in the Health Science」

著書：Thomas A. Lang 出版社：American College of Physician.

訳本「トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド」

監訳：宮崎貴久子、中山健夫 出版社：シナジー出版

(公衆衛生学)

【教科書】特に指定しない。

【参考書】「該当年度の最新の実験医学」（羊土社）等

例「実験医学増刊33.7, 2015 先制医療実現のための医学研究」

(医療統計学) (医療データサイエンス学)

【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】特に指定しない。

(医療情報学)

【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】特に指定しない。